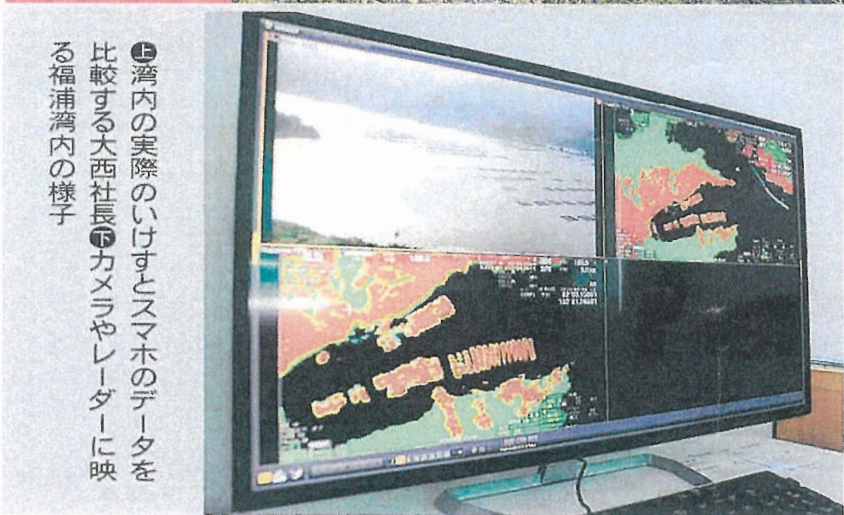


養殖魚を窃盗被害から守ろうと、愛南町の福浦・船越両地区の養殖業者が情報通信技術（ICT）を活用した防犯監視システムを導入している。福浦湾の養殖施設や周辺海域のレーダー情報や動画を手元のスマートフォンで確認できる仕組み。管理免許者の一人、大西水産の大西光社長（29）は「人手をかけず抑止力になっている」と手応えを感じている。

ICTで阻止 養殖魚の窃盗

愛南の業者 防犯監視システム導入



①湾内の実際のいけすとスマホのデータを比較する大西社長②カメラやレーダーに映る福浦湾内の様子

両地区の養殖業者は従来、湾を見下ろす複数の場所に監視小屋を設置し、毎日午後9時から朝5時までの間、年配の業者が交代で見張りをしてきた。年間数百万円の経費を業者で折半していたが、年々業者数が減り負担感も増していた。そこで業者らは昨年4月、湾内全域をカバーするレーダーと、日中3人も識別できるカメラを組み合わせた監視システムを導入した。



使われなくなった監視小屋（左）とそばに立つ防犯レーダーとカメラ

システムの導入を決断。費用は監視小屋時より大きく抑えられ、不審船の侵入時にはすぐにメールで子機登録しているスマホやパソコンに連絡が届く。大西社長は「かつてはいけすごと持っていたしまわ被害もあつたらしい。マグイの成魚だと、いけす1張りで1500万円近くの損害になる。5年に1回起こるのを防げれば元が取れる」と話す。

親機が設置されている愛南漁協によると「湾内を航行する船の軌跡も記録され、漁業者間のトラブルを未然に防げたこともあった」という。防犯監視システムを販売するピーエスエス（神戸市）の友生壮一社長（59）は「窃盗以外にも、給餌の様子を録画して従業員の働き方を客観視し、技術の平準化、向上に役立てることもできる」とし、全国で導入が進んでいると話した。

同様のシステムは町内ではその後、深浦湾にも設置された。
（秀野大俊）